

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成27年度病虫害発生予察注意報第4号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第4号（イチゴのハダニ類）を発表したので、送付します。

イチゴのハダニ類については、平成27年12月21日付け、27農林試第4519号技術情報第13号で注意喚起したところですが、その後も高温が続き、例年に比べて多発状況が継続しています。ハダニ類は、例年1月以降発生量が増加する傾向があり、向こう1カ月の気象予報では月後半（1/30～2/12）の気温は平年並か高くなることが予想されていますので、当分多発状況が続くものと予想されます。

多発後は防除が困難になるので防除対策を徹底し、発生密度の低下に努めましょう。

注意報第4号

1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：ハダニ類

3 発生量（現況）：多

4 注意報の根拠

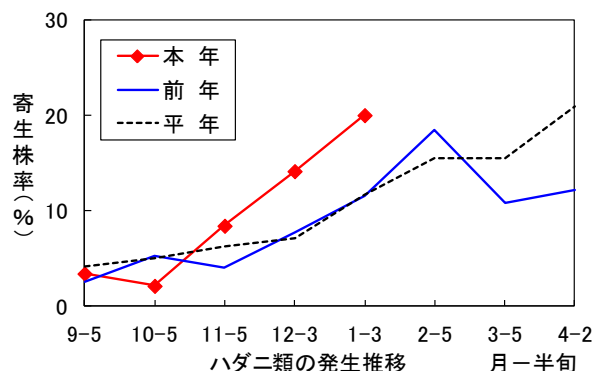
(1) 1月3半旬調査の結果、寄生株率は20%で、平年・前年より高く、12月3半旬調査に続き多発傾向にある。

・1月3半旬の寄生株率 20%（平年 11.6%、前年 11.6%）

・1月3半旬の発生ほ場率 50%（平年 60.3%、前年 41.7%）

(2) 調査地点以外でもハダニ類の発生が多い状態が続いている。

(3) 向こう1カ月の気象予報（1月14日付福岡管区气象台発表）では、1カ月の平均気温は平年より低いとされているが、週別の平均気温では3～4週目は平均気温は平年並か高い見込みである。



4 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内の雑草は、除草を徹底し増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れてほ場から持ち出し、処分する。
- (2) 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 防除は摘葉後に行うと効果的である。
- (4) 必要に応じて展着剤を加用し、葉裏に薬剤が十分かかるよう、丁寧な散布を心がける。
- (5) 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (5) 今後、天敵を利用する場合は、天敵に影響が少ない薬剤でハダニの密度を低下させ、影響日数を考慮して天敵を放飼する。



ナミハダニが多数寄生している葉裏



葉縁のくぼみに生息するナミハダニ